

# 令和元年度 三鷹市大沢地域包括支援センター事業報告書

## 1、総括

三鷹市から受託した地域包括支援センター事業及び生活支援体制整備事業の2事業を実施した。

地域包括支援センター事業では、在宅高齢者とその家族の介護、生活支援、介護予防、権利擁護など、日常生活における各種の在宅介護に関する総合的な相談に対応するとともに、要支援認定者の介護予防プランの作成ならびに事業対象認定者の三鷹市総合事業・介護予防サービス支援計画表の作成や居宅介護支援事業者への支援、高齢者の虐待防止や権利擁護等の諸問題に取り組んできた。

生活支援体制整備事業では、生活支援コーディネーターを配置し、地域住民、諸団体との関係強化や新たな担い手の発掘に取り組んだ。

事業実施にあたっては三鷹市並びに保健・福祉・医療等の関係機関や、民生委員等の地域福祉関係者との連携を密にして、利用者それぞれのニーズに対応した適切なサービスを総合的に受けられるよう努めてきた。また、大沢地区にある様々な団体等との連携の強化に努めてきた。

順調に事業実施できた年度と言えるが、新型コロナウイルス感染症の影響により2月及び3月はいくつかの会議、イベントが中止または延期となるなど業務に少なからず影響があった。この件に関しても、関係機関や地域の関係団体等と緊密な連携体制をもって、情報収集等に努めたところである。

## 2、重点目標に対する達成状況

### (1) 地域のネットワークの深化と拡大

- ① 地域ケアネットワークの運営委員及びおおさわ委員として、引き続き運営に携わることで、より地域との協働関係を強化した。
- ② 住民協議会委員（厚生部会）に就任し、住民の健康づくりのための事業を住民協議会の立場で地域住民と取り組んだ。また併せてコミュニティセンター運営委員として大沢コミュニティセンターの運営にも関わり、地域住民との更なる関係強化が図れた。
- ③ 地域支援連絡会では、新たな参加者も得て、地域ネットワークの拡大が図れた。
- ④ その他、のがわの家の運営や、さまざまな住民主体の活動の立ち上げ等の支援を通じて地域でのネットワーク構築を大きく前進させた。

## (2) 多職種協働ネットワークの深化と拡大

- ① 多職種協働ワーキンググループや認知症にやさしいまち三鷹等、全市で取り組んでいる活動において積極的に役割を果たし、多職種ネットワークの関係構築を推進した。
- ② 「ケア専門職交流会」及び「サービス提供責任者・デイサービス相談員交流会」では新たな参加者も得られ、多職種ネットワークの拡大が図れた。
- ③ その他、様々な機会を通じて多職種ネットワークの深化と拡大を推進し、具体的な成果があがっている。

## (3) 課題解決のためのスキルの向上

職員一人ひとりの質の向上は、利用者の生活課題や大沢地区の地域課題を的確に分析し、解決するためには欠かせないものである。そのための取り組みとして、研修への参加を積極的に推進した。研修については参考資料①「研修実績」のとおりである。

人事評価による職員育成にも取り組んだ。実施にあたっては、職員一人ひとりの目標を設定し、その達成をサポートするという視点を打ち出した。主任職以上には評価補助シートにより自らが設定する目標と法人から与えられる業績目標を達成できたかどうか、一般職員は自らの課題と目標を設定し、その達成度合いに応じてOJTを実施した。

## (4) 事務処理の体制構築

地域包括支援センターの事務処理については、新たな体制のもと本部事務職員と連携を図りながら体制を構築した。